



# 災害拠点 病院 としての 役割



本番  
さながらの  
訓練

災害拠点病院とは、「災害時に  
おける初期救急医療体制の充実  
強化を図るための医療機関」とし  
て定められ、当院は平成24年に厚  
生労働省により地域災害拠点病  
院に指定されました。福岡県には  
29機関(平成28年度)あり、当地域  
である筑紫野医療圏では当院と  
福岡徳州会病院の2病院になり  
ます。災害拠点病院にはDMAT  
(Disaster Medical Assistance  
Team)と呼ばれる、「災害急性期  
(発生後 48時間以内)に迅速に展  
開し、応急治療・搬送・トリアージ  
などの災害時医療をはじめ、非被  
災地への広域搬送や被災地内の  
病院支援などの活動を行える専  
門的な訓練を受けた医師・看護  
師・業務調整員(当院では薬剤師・  
理学療法士)で構成されるチーム  
を有します。現在医師2名・看  
護師4名・業務調整員2名で、  
2隊編成できる体制にあります。  
「平成28年度熊本地震」の際に  
も、日本DMATチーム1隊、福岡  
県DMATチーム1隊が被災地に

入り、被災地内での急性期医療活  
動に携わってきました。日本は地  
震国であり、災害が起きないに越  
したことはありませんが、望むべ  
くもない災害での被害を少なくし  
ていくためには平時からの備え  
が大切であり、今後も筑紫医師会  
および近隣の病院との連携をは  
かり被災者の救命・緊急治療に対  
して最大限の対応を行っていき  
ます。具体的には筑紫野消防本部  
と連携をはかり、一般災害(地震・  
風水害、大火災、航空機事故、列車・  
高速道路事故等)を想定した勉強  
会および訓練は数年前より院内  
外で行ってまいりました。今後は特殊  
災害(化学工場災害、原発事故、化  
学災害(核兵器、生物毒、化学物  
質))にも耐えられるような訓練  
も必要になってくると思います。  
また当院の筑紫野市・太宰府市  
で開催されている健康講座にも  
災害医療をテーマとした講座を  
行っており、興味のある方は  
ぜひ参加されてみてください。  
さて先日平成29年2月11日に

は、警固断層地震(仮想)を想定し  
震度6強の発災時に対して実地訓  
練を行いました。当日は、今年最大  
の寒波により生憎の積雪という天  
候に見舞われましたが、当院及び  
地域の救急隊のほかに看護学生さ  
んなどに患者役に扮していただき  
ました。多数傷病者が来院するこ  
とを想定した外来ブースでは、ま  
ずトリアージ(治療優先度を決め  
る)を行い各ブースでの対応。トリ  
アージは赤：治療最優先群、黄待  
期的治療群、緑：軽症・治療保留  
群、黒：無呼吸群に分類され、平時  
とは異なる医療資源の限られた中  
で、最大限の治療効果を提供でき  
るようにそれぞれのブースでは、  
患者の状態確認から治療または入  
院や転院の決定、また繰り返しト  
リアージを行いながら、傷病者の  
変化に注意しながら対応を行うと  
いった、参加者には災害時の医療、  
トリアージとはどういうものかを  
体験でき、本番さながらの有意義  
な訓練となりました。災害時にお  
ける一番の問題点としては、ライ

フラインの確認や正確な情報を  
扱うこと。病院内では入院患者さ  
んはじめとし、スタッフ自身も被  
災者となりうることも考えられ、  
予想される事象に対してどう対  
処していくのかなど指揮命令系  
統の確立や情報共有・伝達の重要  
さを改めて痛感しました。まだま  
だ課題は山積みでBCP(Business  
Continuity Plan:事業継続計画)に  
基づき、災害などの緊急事態が発  
生したときに損害を最小限に抑  
え、診療体制の継続やできるだけ  
速やかに復旧を図れるように、緊  
急時の初動から回復復旧までの  
対策を十分に練り、まずは院内ス  
タッフへの周知徹底を。さらには  
地域の消防本部はじめ行政との  
連携、最終的には地域の住民の  
方々への啓蒙へとすすめていく  
必要があると考えます。病院訓練  
の際にはぜひ一般の方にも見学  
していただくことで、事前に備え  
ることもできるかと思えますの  
で参加をお待ちしております。